



第 180 回 日本の主権回復・インドの分裂

1 日本の国際社会復帰

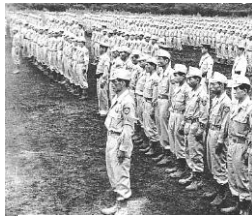
・日本は、アメリカを中心とする GHQ の占領下で民主化が進められていた。
→朝鮮戦争勃発後、アメリカは日本を西側陣営に加える方向で政策を転換した。

・1950 年、在日アメリカ軍が朝鮮半島に出動したため、GHQ は () を発足させた。そして 1952 年に保安隊、1954 年に () と改称した。
→また朝鮮戦争によって日本は () となり、日本経済は急速に回復した。

・1951 年、() が日本と連合国との間で開催された。
→ () が結ばれ、日本は主権を回復した。

※ソ連や中国など東側の国々、インドなどとは結ばれなかった。

・1951 年、() が結ばれ、主権回復後もアメリカ軍が日本に駐留することが決まった。



警察予備隊

在日アメリカ軍が朝鮮戦争に行ってしまったため、かわりに治安維持や防衛を担うために発足した。「軍隊ではない」とされたが、事実上の再軍備であった。



朝鮮特需

写真はアメリカの戦闘機を修理する日本人。朝鮮戦争で使用する軍需物資は、ほとんど日本で生産された。



サンフランシスコ平和条約

48 か国と結んだ。写真は平和条約に調印する吉田茂首相。日本は正式に朝鮮半島・台湾・南樺太・千島列島などの領有権を放棄した。

・1954 年、アメリカの水爆実験により日本漁船 () が被ばくした。
→原水爆禁止運動が起こり、1955 年に () が開かれた。

・1955 年、核兵器の危険性を訴える () が出された。
→1957 年、科学者が集まりカナダで () が開かれた。

・1956 年、() が出され、日本とソ連の国交が回復した。
→ソ連の反対がなくなったことにより日本は () した。

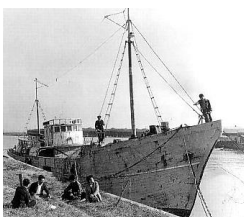
2 日本の経済発展

・1955 年、() が結成され、長く政権を握った。

・1960 年、岸信介首相は、() を行いアメリカの日本防衛義務を明文化したが、激しい安保反対闘争が起こり退陣した。

・1950 年代半ばから () の時代を迎え、先進工業国となった。
→1960 年、池田勇人首相は「所得倍増」をとらえ、経済成長を進めた。

・1964 年、() が開催された。



第五福竜丸

被ばくしたマグロ漁船第五福竜丸では、船員ひとりが亡くなった。またマグロの風評被害も問題となった。原水爆禁止運動は、杉並区の主婦による署名運動から始まった。



日ソ共同宣言

署名する鳩山一郎首相(鳩山元首相の祖父)とソ連のブルガーニン。平和条約締結後に歯舞群島と色丹島を引き渡すことで合意したが、交渉は進まなかった。



岸信介首相

戦時中は官僚として満州国の運営に関わった。「安保が理解されるまで 50 年かかる」と言った。安倍晋三の祖父にあたる。



3 インドの独立と分裂

- ・インドは18世紀以降（ ）の最重要植民地であったが、独立運動が活発となっており、大戦中には「インドを立ち去れ運動」も起こっていた。
※しかしヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の対立も激化していた。

☆（ ）（1947～1950年完全独立～2023年現在）

都…デリー



ネルー

国民会議派の議長として、独立運動を指導した。周恩来やナセルとともに、第三世界を代表する人物である。娘と孫もインドの首相になった。

- ・1947年、イギリスのアトリー内閣は、インド独立法によってインド連邦の独立を認めた。
→国民会議派の（ ）が初代首相に就任した。
- ・1948年、最後までインドの統一と宗教の融和を求めていた（ ）が、狂信的なヒンドゥー教徒によって暗殺された。
- ・1950年、カーストによる差別を禁止するインド憲法を施行して英連邦から離脱し、インド共和国となった。



チャンドラ=ボース

第二次世界大戦中に、日本軍と協力することでインドの独立を目指した。日本の敗戦からわずか3日後に、飛行機事故で死亡。事故死がどうかは論争が続いている。



ガンディー

ガンディーは、戦前から非暴力主義によるイギリスからの独立運動を指導していた(第164回のプリント)。「偉大なる魂」という意味で「マハトマ」とも呼ばれる。



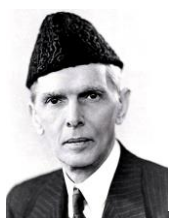
国葬に集まった群衆

ガンディーは、最後までイスラーム教徒との融和を説いたが、宗教対立はひとりの力ではどうにもならないところまで来ていた。国葬には250万人の民衆が集まったとも。

☆（ ）（1947～2023年現在）

- ・（ ）が指導する（ ）を中心とするイスラーム教徒は、独自の国家建設を目指しパキスタン共和国を建国した。
→（ ）をめぐってインドと激しく対立した。
→インド=パキスタン戦争（印パ戦争）と呼ばれる3度の全面戦争に発展した。
※1971年には東パキスタンが（ ）として独立するのをインドが支援し、3度目の印パ戦争となった。

- ・1998年、インドとパキスタンは共に核保有を宣言するなど、対立が続いている。



ジンナー

パキスタン独立の父とされ、現在でも国民的英雄である。晩年は結核におかされながらも活動を続け、独立の翌年に死去した。



印パ戦争

国旗を建てるインド軍。第1次(1947年)と第2次(1965年)はカシミールをめぐって、第3次(1971年)はバングラデシュの独立をめぐって全面戦争となった。



バングラデシュの洪水

独立したバングラデシュだが、度重なる洪水などで、経済は非常に苦しい状態にある。失業率は40%に達している。

- ・1948年、セイロン（島）がイギリス連邦内の自治領として独立した。
→1972年、国名を（ ）に変更し、完全独立をした。
→しかしタミル人とシンハラ人との間で内戦が続いた（2009年終結）。